

はじめに

防災マップの使い方／内容 2
 マップ(地域別・想定最大浸水区域図)の見方 2

1 災害の特徴を知る

1. 風水害に関する解説 3
 2. 土砂災害に関する解説 5
 3. 地震に関する解説 7

2 避難の方法を知る

1. 避難情報等(警戒レベル)・防災気象情報に関する解説 8
 2. 情報の入手方法 11

3 もしもの時に備える

1. 非常用持出品チェックリスト 13
 2. 非常用備蓄品チェックリスト 14
 3. ペットの避難 14

4 避難所一覧

1. 指定緊急避難場所・指定避難所一覧 15

5 自助・共助の取り組み

1. 自主防災組織の紹介(共助) 17
 2. マイ・タイムラインの紹介(自助) 17

緊急時の連絡先 18

マイ・タイムライン作成シート (裏表紙)

防災マップの必要性

防災マップ(ハザードマップ)は、
 「災害が起こりやすい地域はどこか」、「避難情報はどのように入手するのか」
 そして「どこへ避難するのか」を住民の皆様へ周知するため、
 水防法、土砂災害防止法に基づき作成されています。
 事前に地域の特徴を知り、
 もし災害が起こったときに何をすればよいかを考えましょう。
 ご家族や近所の方と話し合うことで、いざというときに備えましょう。

防災マップの使い方

今回発行する「高梁市防災マップ」は、「情報冊子」と「マップ(地域別・想定最大浸水区域図)」に分かれています。

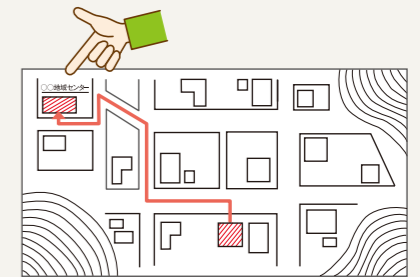
「情報冊子」では、

- ①災害について知り、避難する際にはいつ・誰と行動すればよいかを考え、
- ②もしもの時に備え、何をしておけばよいかをご家族で意見をまとめた上で、
- ③世帯ごとに独自の「マイ・タイムライン(行動計画)」を完成させましょう。



「マップ(地域別)」には、

- ①地図上で自宅の位置に印を付け、自宅の災害リスクを把握し、
- ②ご家族で話し合い、自宅から避難先への避難経路を確認しましょう。



▶ 「情報冊子」と「マップ(地域別・想定最大浸水区域図)」の情報は高梁市ホームページからもご覧いただけます。ご家庭のパソコンやスマートフォン等もご活用ください。

マップ(地域別・想定最大浸水区域図)の見方

○「マップ(地域別)」には、地域の災害リスクを把握するため、次のような情報を掲載しました。

- ※1
- ・洪水浸水想定区域(L1)
- ・土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域
- ・市内の避難場所、消防署、病院、災害対策用ヘリポート等の施設、異常気象時の通行規制区間

○「マップ(想定最大浸水区域図)」には、※2

□洪水浸水想定区域の見方

洪水浸水想定区域は高梁川と成羽川における想定降雨量を決め、どれほどの水量が川に流れるかを計算し、複数の決壊箇所を想定してシミュレーションを実施して、その場所で最大となる浸水深を表示したものです。

※1 地域別には浸水想定区域(L1…レベル1=概ね100年に一度の大雨を想定した「計画規模」)を、
 ※2 想定最大浸水区域図には浸水想定区域(L2…レベル2=概ね1,000年に一度の大雨を想定した「想定最大規模」)を、それぞれ地図上で色を付けました。

ただし、必ずしもマップのように浸水するということはありません。マップで色がついていない場所でも川の周辺など浸水の恐れはありますので、この「情報冊子」を読んで災害に備えましょう。

災害の特徴を知る

避難の方法を知る

もしもの時に備える

避難所一覧

自助・共助の取り組み